

光の子

発行／社会福祉法人光の子どもの家

編集／光の子 編集委員会

〒349-11 北埼玉郡大利根町砂原277

TEL／0480-72-3883

振替 東京3-128022

賀春



おのが分を尽す（ルカ 十七ー十）

理事長 福島 勲

山を歩いてふと後をふりかえる
と、登りはじめた地点が遙か下に見えて、ずい分登ってきたものだと思わず快哉を叫ぶことがある。とくに思い、またみせかける。

一歩一歩確実に足が地につき、
気負うことなく銜うことなく、平
静な心で事を進め時を刻んでいく。その内実が空虚では、いたずらに
このような人生であり、新しい年
でありたい。
人
の価値はその志の高さに等し
いといった哲人がいるが、しかし
自己満足して生涯を終えることで、
物悲しく哀れを限りである。

小・中学生のころ作文で「新年
を迎えて」とか「新年の抱負」と
かの題を課せられた。
おのが分を尽そう。「なすべき事
をなしたに過ぎません」と言おう
という事です。

たわいのないことをしかつめら
しく書いたが、年が終って一度だ
って書いた通りのことが実行され
たり実現したためしがない。
福祉にたずさわる者には大きい
決断が求められる。愛の真実が問
われる。今までは気付かなかっ
た世界が覗かれ、忍耐や努力が
要求される。

世の中のままならないこと、自
分の頼りにならないことを知らさ
れて、だんだん大人の世界にはい
ってきた。大人の世界はさらに輪
をかけて複雑多岐。ここでは邪気
が先に立ち、悪知恵を働かせ欲が
からみ、御しがたい自分を善人や
真摯さを装って生き抜こうとする。
しかし言うをやめよう「福祉に
たずさわるわれわれだけが、人間
愛に富んだ特異な価値あることを
やっている」と
これにたずさわらない者らには
愛がないかのように見くだしたり、

目立ちたがる成功という名の輝

光の子どもたち

施設長 今関公雄

評価したりすることを慎もう。やたらと形容詞や副詞や感嘆詞を駆使した文章で、巧みに表現して自賛するようなことは戒めよう。高慢に高踏的な態度はそれ自身福祉にもとるのである。

きびしい両親に育てられ、親の顔色ばかりうかがって行動するようないじけた子供や、言われないと為らない自主性のない者、規則だからするという自発性のない者でなく、のびのびと内から湧き出る神にささえられた愛によって行動できるものでありたい。

なすべき事をしたに過ぎません。おのれの分を尽せという一見消極的で、具体性に欠けているようであるが、その実これは虚栄に満ちた目立ちたがりのわれわれにとっては大変なことである。

こうした決意もまた空振りに終って、年の瀬に至って、深く頭を垂ねねばならないことにならないように願うことの切なるものである。

光の子どもの家は、八五年十二月で施設開設後、半年を迎えます。この間の歩みの中で最大の喜びは、子どもたちが健康に恵まれ、心身共に豊かな成長発達を遂げてきたことです。

現在、二才から六才の子どもたちが、十名入所しています。二才四、三才二、四才一、五才二、六才一、であり男四、女六の割合です。入所の主な理由は、母親の病気・家出・両親の離婚などであり、小さな身体でその重荷を黙って背負っています。

光の子どもの家は、原田家・佐藤家・仙道家の三軒の家から成り立っています。家名は、法人理事の名前を借用したものです。各家とも入所児の定員は十名です。一階五、二階五の配置で、各階に担当保母がつかまいます。この六名で基本的な生活集団である八家族Vを構成します。子どもの居室は、六畳に三人、四畳半に二人となっており、その横に勉強部屋としての板

の間が付いています。台所・風呂場・小食堂・洗面所等が、各家専用に設けられ、朝夕は各家の保母が調理をして、すぐ隣の食卓で暖いうちに食事を家庭的にします。

先の十名の子どもたちは、三軒の家に三・三・四名に分かれ、三・二・三名づつの保母が、養育に当たっています。全体のルールや行事は必要最小限にとどめ、生活運営はその「家族」にまかされ、独自性と家風を尊重しています。

この半年間の生活によって、三軒の個性も鮮明になってきました。私は、執務室でもある園長室の窓から中庭を半年間眺めつつ、子どもたちの成長発達を垣間見ました。その中で最大の变化は、幼稚園児の登降園風景でありました。子どもたちの入所後、約三ヶ月を経過した十月下旬より、五・六才の三名が、地域社会の幼稚園に途中入園し、この二ヶ月間元気に通園しています。その登降園風景は、まさに子どもの世界そのものであり、子どもたちは意気揚場として高年児らしくなってきました。殊にその制服姿は、まことに凛凛しく「孫にも衣裳」の言葉が、実感をもって味わうことができました。少し不安を抱いて送り出したI君も、毎日喜んで通園しており、情緒面の成長がうかがわれ、だいぶお兄さんらしくなってきました。Mちゃんも、表情が和みお姉さんとしての包容力が育ってました。優しいY君も、通園後徐々に逞しくなってきました。

また、他の幼児たちの外遊びも活発になり、夏には水遊び、秋の砂遊びと、お互いの関わりも盛んになりました。時々、激しい喧嘩もします。これらのやりとりを見ながら、入所直後の姿を思い起します。あの表情が乏しく、言葉数が少なく、めそめそと泣き虫だったT君も、どうしてどうしての腕白ぶりです。まず、情緒面が安定し、表情が豊かとなり、言語発達も素晴らしく、なかなかの悪童ぶりを発揮して他児を泣かせたりします。その心身発達には、目を見張るものがあります。

私はこれらを見る度に、子ども

養護メモ 悲しんでいる人たちは……

養護施設光の子どもの家は、働く人々の都合を考えた職場として

は、つくづく正直なものだと実感しています。つまり、これらの成長発達の背後には、保母など職員

の濃密な関わりが、正直に出ているといえます。ひと言でいえば、丁寧な手をかけてきた成果といえます。

今夜もまた、各家の明かりが夜中近くまで点つています。子どもたちの一日の生活を振り返り、克明な記録を整理する保母たちの黙々とした仕事の明かりです。我が家の子どもたちは、神様より託された神の作品です。また磨けば磨くほど、光沢を放つ宝石です。ただその生育歴を配慮するとき、子どもたちは肉親を超えるほどの愛と奉仕を必要としています。

時は丁度、クリスマスです。私たちの救いのため、十字架の贖いの御子イエスがこの世に誕生されました。愛と奉仕の源です。新年を迎えるこのとき、イエス・キリストに従い、子どもたちに仕えるものでありたいと願います。

養護施設光の子どもの家は、働く人々の都合を考えた職場として

は造られていない。おとなと子どもが一緒に暮す場所として、当時黒川紀章都市建築設計事務所所

属し、現在ARCD E S I G Nを設立し活躍している気鋭の建築士たちと討論を重ねてプランを練りあげた。土地の選定、建物の機能デザイン、その構成、生活の内容などを、八家族で家族と暮すことのできない子どもたちVのために最もよいものを用意しようと。結局、それは八家族で家族とする普通の暮らしVを用意することに他ならなかった。

ファミリーグループホームを含めない児童福祉行政が許容する範囲のなかで、資金と時間の厳しい制約を受けながら、家庭に限りなく近い生活空間を求めつづけた。そこに職場のイメージの入

あたたかさと管理と。

働く者に休養は権利以前の命令でさえる。労働時間の短縮は働く者の求める正しい主題である。

家庭を失った子どもたちのための施設は、まず、子どもが安心して生活し、情緒豊かに成長できるようにすることを第一義とする。

労働の現場で、子どもたちの全生活が展開する矛盾に満ちた養護施設の課題は避けて通れない。

子どもが安らぐ場面でおとなが緊張し、やさしさを育くむ時に疲れてしまいかかわりに問題を見る。

労働のための衣服に身を固め、子どもが裸になって本音を語らないと嘆く愚しさを考えた。バジャマで子どもと抱き合って寝られる普通の家庭の営みを志向した。

親たちが担う家事と育児労働は家族の安らぎと感謝、子どもの成長を対価に為されている。不充分性は多くあるが近似したかわり性をこそ追求したい。

ものであり、子どもたちは意気揚場として高年児らしくなってきました。殊にその制服姿は、まことに凛凛しく「孫にも衣裳」の言葉が、実感をもって味わうことができました。少し不安を抱いて送り出したI君も、毎日喜んで通園しており、情緒面の成長がうかがわれ、だいぶお兄さんらしくなってきました。Mちゃんも、表情が和みお姉さんとしての包容力が育ってました。優しいY君も、通園後徐々に逞しくなってきました。

また、他の幼児たちの外遊びも活発になり、夏には水遊び、秋の砂遊びと、お互いの関わりも盛んになりました。時々、激しい喧嘩もします。これらのやりとりを見ながら、入所直後の姿を思い起します。あの表情が乏しく、言葉数が少なく、めそめそと泣き虫だったT君も、どうしてどうしての腕白ぶりです。まず、情緒面が安定し、表情が豊かとなり、言語発達も素晴らしく、なかなかの悪童ぶりを発揮して他児を泣かせたりします。その心身発達には、目を見張るものがあります。

私はこれらを見る度に、子ども

崎が一階を石毛が二階で文字通り子どもと寝食を共にしている。暮らし方のコツや生活の手順など殆んど知らずこの春まで親に甘えていた娘さんたちである。行きとどかず心もとないあぶなっかしいとりくみはハラハラさせたが、子どもと充分時間を使い、真剣に試行錯誤しながらつくり上げていく生活はうなづけた。そんな中に十二月から若い指導員の丹羽が加わった。夜遅くまでよい働きをするため、数日後、岩崎が「自分の子どもとだけで寝る夜がなくなってしまう」とつぶやいた。三人交替で八宿直Vし、合理的に管理する夜間勤務になったからである。

岩崎のつぶやきがそれぞれのかわりを見直させている。とりわけ丹羽は、担当保母がよりよい働きをするために自分はどうかわるのか。自分でなければならぬ。かわりは……。試行を始めている。養護活動は許し合って欠けを補い合い、各々がかけがいのない者として存りつづけること。これが基本になると考える。こう願ってこの施設は作られた。(G)

現場から

心細さのなかで II 上棟圭子

「Nちゃん」一日に何度保育から叱られるでしょうか。その度に「ごめんさーい。」と謝るNちゃんです。でも、この「ごめんさーい」が言えるようになったのも、つい最近のことです。入所した時は「バイバイ」「こわい」「あつ

志をことばで伝えられるようになってきました。

「Nちゃん」一日に何度保育から叱られるでしょうか。その度に「ごめんさーい。」と謝るNちゃんです。でも、この「ごめんさーい」が言えるようになったのも、つい最近のことです。入所した時は「バイバイ」「こわい」「あつ

つなぐの」/と叫びます。寝る時も、「けいちゃん、Kちゃんとねないの。Nちゃんとねるの。」と言ってKちゃんに奪われまいと抱きついて眠ります。今は保育と一対一の関係ですが、来年からはそんなわけにはいかず、とても難しい問題だと思えます。保育は皆ののものであって自分だけのものにはなれないこと、どんなにかわいがっても本場の親と一緒に暮らせない淋しさや悲しみは心から離れないこと、満たされることのない心をこれからどうやって埋めていくのか答えの出ないという問題です。

に育てていきたいです。
十一月十五日、数えて三才のNちゃんは七・五・三を迎えました。服も靴も新しいのを着けて写真を撮りました。たったそれだけのことがNちゃんにとってはとてもうれしかったのでしよう。「パッチーこつて（写真）撮ったの。くっくはいて。」と何日も何日も言っていました。Nちゃんの笑顔が私の笑顔に移ってきます。

心も体も大きくなったNちゃん。毎日、怒ったり笑ったり、その成長力に圧倒されながら、どう進んでいくのが本当にいいことかわかりません。けれども、とにかく前を向いていくしかないのだと、自分に言い聞かせています。

仙道家では今、小公女セーラごっこが流行っています。Nちゃんは専らいじめられ役のセーラで他の三人の子どもたちから「セーラ／＼おまえの夕ご飯はないからね／＼」と言われます。その度に「イヤーよ。」と泣いてしまいます。ある日保育と遊んでいる時に「セーラ／＼とT君から呼ばれ、保育の後ろに隠れて「ヤダ。セーラ嫌い。」と逃げてしまいました。「Nちゃん、セーラやんないの／＼」と自分の意

ことが急激に発達したNちゃん。情緒もとても豊かになりました。おもちゃを散らかして片付けないでいる時、「ほら、パンダちゃんがお家に帰りたいって、かわいそうよ。」と言うと、「かわいそう？いい子、いい子。」と言っておもちゃ箱にしまっておきます。夜、寝る時「さむい？」と言って保育に布団をかけてくれます。小さな布団を保育にかけると自分は布団からはみ出してしまふのに平気でかけてくれます。優しい心を大切に



現場から

一年生保育の報告 3 石毛照子

佐藤家の二階の子ども部屋には、いつのまにか三人の子どもが寝るようになった。洋服ダンスの横には、幼稚園の制服もかかっている。

日が続く、それまで子どもだけを見てきた私に、親の存在が大きく感じられ、親と子の連がりを、実感させられた時であった。

少し慣れてきたHちゃん。「お母さんも病院でがんばってるから」と毎日保育に言い、自分に言い聞かせてる。野菜も食べられるようになったから、今度は、すぐに泣き声が聞こえてこないように、仲良く遊ぼうね。

九月末、3才7ヶ月のHちゃんが、母親につき添われて入所、お人形の様にかわいらしく着飾った女の子という印象がまずあった。

あさんの病院にお見舞いに行く。絶対泣かないんだと心に決めていたのに、子どもの顔を見た瞬間涙があふれてしまふ母親、いまさらながら、親なんだな、私は、足元にも及ばない存在なんだ、と思

幼稚園で家で、毎日背中を押されるようにされて、たいへんだと思うけどしっかりがんばってるTちゃん。五才になると一人で歩き始める

「おばさん家、広いね」「Hちゃんね、お母さんの病気が治るまでここにいろ」としっかりと話を

事から感じ、自分のしている仕事事が恐ろしく思えた。それから少したつて、Tちゃんの実父より一年3ヶ月ぶりに連絡がくる。Tちゃんに「お父さんから電話よ」と伝

毎日の生活をがんばっている子ども達のもとに、すばらしいサンタクロースが訪れますように。よく晴れた冬の日に秩父風が音をたてて舞っています。

この様なHちゃんを見て、Tちゃんは「かなしいの」と優しい言葉をかけてあげる。そして二人で、仲良く遊ぶ姿が多く見られるようになった。この頃のTちゃんの変化は、著しいものがあつた。Hちゃんは、保育園に通っていた為だらう、遊びが豊かで、子どもだけ

日が続く、それまで子どもだけを見てきた私に、親の存在が大きく感じられ、親と子の連がりを、実感させられた時であった。

毎日の生活をがんばっている子ども達のもとに、すばらしいサンタクロースが訪れますように。よく晴れた冬の日に秩父風が音をたてて舞っています。

この様なHちゃんを見て、Tちゃんは「かなしいの」と優しい言葉をかけてあげる。そして二人で、仲良く遊ぶ姿が多く見られるようになった。この頃のTちゃんの変化は、著しいものがあつた。Hちゃんは、保育園に通っていた為だらう、遊びが豊かで、子どもだけ

日が続く、それまで子どもだけを見てきた私に、親の存在が大きく感じられ、親と子の連がりを、実感させられた時であった。

毎日の生活をがんばっている子ども達のもとに、すばらしいサンタクロースが訪れますように。よく晴れた冬の日に秩父風が音をたてて舞っています。



現場から

入所第一号

3

竹花信恵

枕木の歩道が白く光り、一面の緑、クローバーは葉と葉を合わせでこぎえているつめたい朝。今日も元気で登園しました。「いつてらっしゃあ」と、TくんもMちゃんも外に出てお見送りします。「すべるから走らないのよ」と言っている間もなくツルン。頭が重いののでよくころぶTくん。枕木に顔をつけて泣いていましたが、さすがにこの季節、起き上がるのも早くなりました。涙と鼻みずでティッシュペーパーが大活躍の毎日です。はじめの頃は、だっこされて見送っていたため、「お見送り」とはだっこのことだと思ってしまうMちゃん。「お見送りしたい」と、相当の甘えんぼうになりました。来春の入園を楽しみに、お姉ちゃんに教えてもらった園歌を歌っています。

お姉ちゃんのMちゃんは、無事幼稚園のバラA組の一員になれました。地域の子どもとして、光の子どもの家から初めて送り出すこ

の緊張、かなりの「大物」であろうことの不安、お友だちと仲よくできるのだからか、そして、世間の風は冷たくないだろうか……。そんな心配をよそに、就学前のほんの短い数ヶ月ですが、楽しい園の生活であることは、何より話好きなMちゃんからの情報と、表情でわかります。はじめて4人もお友だちをつれてきた日には、保母の方がとまどってしまったが、とつともうれしいうちになりました。できないことをあげればきりがなかった夏の日。能力の極度なアンバランス、今では何でもこなしてしまっています。こんなにかわってける子どもはエネルギーのすばらしさを思うと同時に、Mちゃんには、かなり無理させてしまったでしょう。「成長」ということを改めて考えさせられます。まっすぐに上をめざして、ただ獲得していきけるなら、まだ6才のMちゃんが、あと少し生きれば、もうできないことや知らないことはなくな

ってしまいうでしょう。でも、どこかでヒビが入ってしまいうです。まだまだ大切な土台の時。甘えること、そして泣くこと、Mちゃんの苦手なそれらのことを、たくさんたくさん経験する時です。Mちゃんの心がすこしずつ、ときほぐされて、ゆれ動いています。もともと、突然の大泣きと、思いもよらないぐすり方に、ためいきがでてしまう保母ですが……。大人を観察する目をもった「こわい」Mちゃん。「こころのたたかい」も経験しました。試されながら、ますます多感な学童期に向かって信頼関係を創っていくたらと願っています。

クリスマスを迎える準備。四週前から原田家では、朝食の前にアドベントカレンダーによって、ほんの短いお話を読みます。「アウグストのご本は？」「てんしはガブリエルよ」などといっしょうけんめい発音しているのは妹のMちゃん。はじめてのクリスマス会での劇では、マリアさまになります。将来は新体操の選手か、と思わせる身の軽さで、「チェンジ、マーマード」ととびまわっています。なきむし、いじけむしのついた顔



より笑顔が何よりすてきです。先日、Tくんのおうちにおじゃましました。家の事情でいっしょに暮らせないけれど、3才年上のおにいちゃん、とっても元気のSくんにも会えました。2人きりの兄弟、絆を強くしていくことに少しでも役立てたらと心から願います。ヨイドンと走ると、おなかでテープを切りそうなTくんもSくんのこと心にきざみつけています。今度いっしょにあそべるといいね。

時間の、量の制限も、何よりも「これでいい」という自信も満足もない仕事のむずかしさをやとふりかえってみれる頃になりました。ここまで歩みを進められたことを感謝しつつ、新しい光の子を迎える備えを始めたところです。

エッセイ

幸福な景色が多い

俳人 落合水尾

「大利根」とはいい名前である。北崎の地区文集の表題にもなっているほどで、利根川の風光と共にひらける郷土を誇り高く表象する地名である。昭和二十二年、キヤサリン台風にみまわれ、堤防の決潰による大被害に合うが、その悲傷を力として、復興をみた気概は誠に頼母しく、野面をわたる風も、土性骨のすわった人情に優しく吹く。夜は夜で、電照ハウスが絶景をなす。

競馬の行なわれたのも昔の話。いつまでも村のままで、生活を高めてほしいと思うのは、傍観者の期待というものであろう。今では町制もしかれ、体育館、福祉会館等を初めとする諸施設の完備とその威容は、町の活力をそのまま示すものとしてまばゆい。児童会、奉仕活動等もめざましく、人間を育てる情愛に満ちた活動が地に着いているのも輝かしいことである。地区出身の県知事、栗原浩先生

の胸像が埼玉大橋のたもとに建つ。文学と美術に造詣の深かった先生は、自然の美しい郷土に、真実と美を大事にする生活の確立を求め、自浄と連帯を育くむ幅広い実践を徹された。利根川に渡した円やかな大橋の姿は、先生の政治哲学を象徴するものであろう。

天の申し子のように建った光の子どもの家の建設も、歴史に誇るべき夢の実現ではなかったらうかと思われる。ものを創設するにあたって、苦難の道がなかったとは思われない。人々の叡智と愛の精神は、苦難を乗り越え、より高い次元の光明を求める途に着いた。避けて楽をみるのではなく、受け苦をみることがあったとしても、それを踏み越えて、より大きな幸福を人々の上に見出そうとする積極的な活力は、おのずからなる郷土愛の発現であらう。教育と文化の上に、多大の光明を生むであらうことを疑うものではない。

化粧のないコンクリートをむき出しにした光の子どもの家。一見、粗野だが、それだけに頑丈である。そこに点される愛の光りが、希望の道を豊かに招くであらう。

私は、現在の教育の中で、愛される教育から、愛する教育への視点の転換が急務であると考えている。愛される教育も、甘やかされる教育になっているかも知れない。愛する教育にいたっては、影をひそめているのが現状であらう。世の中を騒がせている子どもものいじめの問題も、考えてみれば、社会の姿の反映であるのかも知れない。ただ仲良くしあうという、日常的な次元の幸福ではなく、もつとお互いに注意しあえる人間愛を基盤として、よりよく向上していけるシステムに立ったもう一つ高い次元の幸福が求められなければならないだろう。生活することの中で愛するとは何か。それは、苦しみを神によって与えられた励ましと受けとめる謙虚さと忍耐力との中で他にはたらきかけることを身につけていく、精神的、実践的生活力であらう。与えられることだけを求めるのではなく、少し



でも与えることを喜びとする、それがすすんで実行できる生活意識の陶冶。その明るい力強い足音が光の子どもの家の建った郷土に見出せる思いである。

埼玉大橋の上から迎える初日はいい。ここ十年近く、大利根の、埼玉大橋にさす初日の出を拝しに出かけているが、割合に、近くの人々はその美しさを知らないでいるようである。

水を染める真紅の帯。紫に刻々と光りの綾の生まれる野と山の景。ひらけゆく大利根の野に幸福な景色が多い。

むらさきの野の尖端に初日の出

水尾

日誌抄

十月十六日、八月一日の六者会談

の合意に基いた、地元・県・施設関係者の第一回連絡協議会が一時から、町長も挨拶に見え、

県児童課、町議会、町、PTA、区長などが揃い経過報告や座長のとり決めなど協議された。施設長が学童の早期受入れを強く訴えたが、P連会長等の時期早尚との考えにより葬られる。

二一日、この地で初めて向えるクリスマスに向けて準備開始。

二三日、NHK、おはようジャーナルで施設の状況が報道される。

二五日、みんなで東松山動物公園に遠足。楽しい一日でした。

二六日、自由人権協会の弘中弁護士など四名来訪。住民登録拒否など一連の反対運動の経過とその後

の状況の調査。未だに学童を入所させていないと決めが極めて違法性の高いものであり

解決のためのご助力を約される。二八日、大利根藤幼稚園へ五才、六才児三名が不安と期待に緊張して登園開始。行き届いた幼稚

園の受入れにより、楽しかったと元気に降園。

三〇日、二才八ヶ月の〇君入所。佐藤家石毛保母担当。

十一月三日、読売新聞、おんらいん欄に、施設の厳しい経済状況と地元を受け入れられている現況が紹介され、全国から激励が

四日、この六月から、ファミリーグループホームを内容とする養護活動を始めている横浜の伸愛学園の一ホームの職員と子どもたちが、見学とエールの交換に。

福祉先進県、市のとりくみに伍していく努力を確認させられた。

八日、NHKの小栗さんより、冬に向ってステキな衣類がどっさり。心からありがとう。

十日、原道小学校PTAの集りで施設長が状況説明と学童の早期受入れを訴える。理解ある反応や激励が多数。感謝。

十六日、佐藤家のT君の誕生祝を地元の針谷さんたち十数人が。肉鍋に赤飯、ケーキもジュースも。ありがとうございました。

二〇日、大利根藤幼稚園の園長先生はじめ全職員が来訪。通園を始めて三週間余、子どもの状況

と今後の教育の方向や方法を協議する。その後、各家にご案内し、夕焼に染まる園庭で子どもたちと名残惜しんで……。

二二日、騎西の鎌田さんの紹介で渡辺さんから庭木をたくさん。

二三日、小林さんから梅数本、栗原造園が姫沙羅、花ミズキなどを。見事な園庭に。感謝。

二四日、感謝の集い。これまでお世話になった人々や町長さんをはじめ地元の人々五十余名にお出いただき、冷雨の降る日に暖かい楽しい集りができました。記念品などのご協力下さった湯沢市の池田浩さん、トミヤさんありがとうございました。

十二月一日、光の子どもの家の礎であるイエスの誕生を祝う準備の季。アドヴェントに入る。

十五日、日子ちゃん、四才、光の子どもの家退所第一号。中央兄相の秋枝福祉司もかけつけて下さり、佐藤家のささやかで長が

くい三時のおやつがお別れ会。お母さんと手をつなぎ、みんなに見送られていきました。親一人娘一人の水入らずのそして厳しい暮しに祝福を。

と今後の教育の方向や方法を協議する。その後、各家にご案内し、夕焼に染まる園庭で子どもたちと名残惜しんで……。

二二日、騎西の鎌田さんの紹介で渡辺さんから庭木をたくさん。

二三日、小林さんから梅数本、栗原造園が姫沙羅、花ミズキなどを。見事な園庭に。感謝。

反射光

○激しく厳しい困難にちりばめ

られた八五年も終ります。俳詠

浮野を主宰する不動岡高校教師の落合水尾先生の見事なエッセイは面映く暗がましい思いにさせて、困難を訓練とすることを学んだこの一年を表現して下さいました。

○光の子どもの家が主人を迎えるまで待機した三ヶ月間が最も苦しかったとある保母が。卑劣な悪意が反対運動を煽り、行政に飛火して、報道機関の良心が全国の良識を呼び起こし抑制してくれました。

この苦難の真只中で、多くの人々に励まされ、助けられました。その中で私たちが受け入れ、励まし

力づけようとしていた、入所して来た子どもたちに最も助けられたことを思います。そんな相互性に

満ちたかわりを持ちつづけたいものです。○光の子どもの家にと

つてこの年は、狭い門をくぐり抜けるなかで、多くの善意と良識と

訓練と祝福に満ちた一年でした。新しい年も険しい困難な道が見

られます。狭い門から入る祝福を願ってこの期を歩みます。(G)